

# 両校監督ご挨拶

## 慶應義塾体育会競走部

### 鹿又 理 監督



コロナを乗り越え男子第 71 回、女子第 13 回の伝統の一戦を開催出来る事に感謝申し上げます。本年は同志社の精鋭を日吉にお迎えし、3年振りの有観客での開催になります。

対抗戦は勝ち切るかどうか、一点を獲るか獲られるかで大きく勝敗に影響します。この一点に拘る姿勢が有観客で観ている方々を魅了するのだと思います。

対抗戦の醍醐味は個人競技の陸上競技がチームスポーツになる瞬間です。同志社、慶應義塾の選手が真夏の一戦にどう戦うか、春の地区インカレでの経験を、秋の日本インカレで活躍する為にも、チームとして両校が一段上のレベルで戦う為の大事な試合故、選手、スタッフ全員が、男女各種目で一点を争う熱い試合となる事を期待しています。

勿論、両校 OBOG の皆様も One Team として日吉にて熱い声援を送って頂ける事と期待しております。

## 同志社大学陸上競技部

### 小川 智央 監督



男子 71 回・女子 13 回の歴史を重ねる伝統の対校戦が、本年は慶應義塾大学日吉陸上競技場にて開催されることに喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。昨今の状況下ですが、開催に向けご準備いただきました慶應義塾大学及び関係各位の皆様方には心より御礼申し上げます。

両校あらゆる場面で最大限の取り組みが求められ、窮屈で思い通りにならない世代の学生たちではありますが、工夫を凝らして練習を続け様々な大会でベストパフォーマンスを発揮していると感じます。学生個人の努力は言うに及ばずですが、それを支えてくれるスタッフ、素晴らしい環境を提供して下さる大学、学生スポーツを思い存分やらせてくれるご家族に感謝して、この対校戦でピッチに立つ学生は、思う存分切磋琢磨して勝負は譲れない！という気持ちで競技はするが、お互い競技を終えたら労い称え合える、そんな最高の対校戦にしていきたいと思っています。